



Rotary Weekly



広島空港ロータリークラブ週報

2021年4月14日発行

ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度
国際ロータリーテーマ

会長 伊藤 保 / 副会長 河井一朗 / 幹事 兼田昌紀 / SAA 橋濱智美
事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階
TEL 0848-86-0986 ・ FAX 0848-86-0992 ・ E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp
例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

4月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

例会

例会

例会

休会

本日のプログラム（4月14日）

広島県議会議員 伊藤英治 様
「ひとが一番」

次回のプログラム（4月21日）

重森佳代子 会員

第1204回 2021年4月7日 花見例会記録（13:00～三景園へ）



吉野桜

スモモ

ドウダンツツジ

点 鐘 伊藤 保 会長
国歌斉唱 ロータリーソング「四つのテスト」

出席報告

	会員数 名簿・シニア	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本 日 (4/7)	28 2	19 0	1	5 3	80.00
メイク	兼田				
前々回 (3/10)	28 2	15 0	4	6 3	76.00
メイク	兼田・澤井・重森・鶴田秀樹				

幹事報告

幹事代理 川本会員

《配 布 物》 ロータリーの友、ガバナー月信4月号
週報1203号

《回 覧》 地区大会出欠表・今後の例会出欠表
今年度職場体験学習受入確認

食 事 時 間



会 長 時 間



今月は母子の健康月間です。今日は母子の健康についてお話しします。

毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定 590 万人。

**その原因は、栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、
どれも予防が可能なものばかりです。**

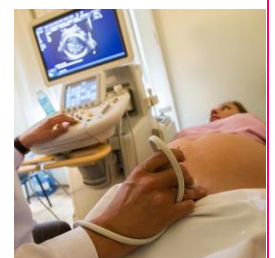
予防可能な原因で母と子どもが命を落とすことなどあってはならないと、私たちロータリー会員は考えます。すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして、出産で命を落とす母親がいなくなり、子どもがすくすくと成長できるように、私たちは支援活動を行っています。

ロータリーの活動紹介

教育、予防接種、出産キット、移動クリニックなど、ありとあらゆる方法で母子の健康を推進しています。
また、女性を対象に、HIV 母子感染の予防、母乳による授乳、病気の予防に関する教育も行っています。



適切な研修を受けた医者、看護師、助産師、医療従事者によるケアをすべての女性が受けられるよう支援しています。
清潔な出産キットの配布、安全な出産方法に関する保健従事者の研修など、妊婦が安全な環境で出産できるよう支援しています。
母乳に関する母親への指導、予防接種と定期健診の推進、防虫加工の蚊帳の配布など、赤ちゃんを守るための支援をしています。



実 例 紹 介

日本とブラジルのクラブがロータリーの補助金を利用して、
新生児の命を救う機器を病院に提供しました。

陣痛がはじまり、妊婦はおびえています。予定日は3カ月も先。一番近い病院は48kmも離れており、生まれても体重は1,000gに満たないでしょう。問題はもう一つ。病院の新生児集中治療室には保育器が7台しかなく、満員になると赤ちゃんを別の病院に搬送する必要があります。命をつなぎとめたとしても、両親は数カ月も長距離の病院通いを余儀なくされます。

ブラジル・リベラバレーの病院 (Dr. Leopoldo Bevilacqua Regional Hospital) でも、多くの妊婦が同じような困難に直面しています。設備が不足すると、すでに危険な状態にある新生児をほかの病院に搬送しなければなりません。この影響は、サンパウロ州の高い乳児死亡率に表れています。新生児の集中治療室に5台の保育器を追加したことで、それまでの倍近い新生児の受け入れが可能になりました。



プロジェクトを主導したリナ・シミズさんの話

「ここには2つの現実があります。私立病院の費用を払える人と、払えない人です。払えない人は、24もの町をカバーしている州立病院まで長距離を往復しなければなりません」。そこで同クラブとRegistroロータリークラブは、岐阜県中津川の2つのロータリークラブとパートナーとなり、グローバル補助金プロジェクトを実施しました。ロータリアンは172,500ドル（約1,900万円）を集め、新生児の集中治療室に保育器5台を追加。これにより、それまでの倍近い新生児の受け入れができるようになりました。2013年には新生児129名、プロジェクト完了後も毎年、新生児約220名の命を救っています。また、換気装置5台、ビリルビン測定装置1台、ベビーベッド3台、血圧・心拍数モニター5台、新生児黄疸光線治療器1台も設置したほか、住民を対象に出産前ケアのワークショップの推進にも貢献しました。この活動は、医療サービスや出産前ケア・母乳の重要性についてあまり知らなかった遠隔地の妊婦にとって、大きな支えとなりました。

ロータリークラブは、出産前ケアと母乳の重要性を伝える活動も支援しました

中津川のロータリアンは以前、補助金で困難を経験したことから国際活動の支援を断念していましたが、今回の経験が大きな転機となりました。この変化を導いたのは、レジストロ市と中津川市の「姉妹都市」提携です。双方のロータリアンは、定期的に交流して友好を深めてきました。だからこそ日本のロータリアンも、自分たちの資金が有効に使われると確信できたのでしょう。日系人で日本語を流暢に話せるシミズさんの存在も、信頼関係とコミュニケーションの構築に大きく寄与しました。ここには37年かけた友情と絆がある。中津川ロータリークラブの原満夫さんは、そう述べました。



今日は卓話時間を利用して三景園へ お花見 🌸🌸🌸

いつも集合写真を撮っている枝垂桜は、すでに葉桜となっていましたので、今年は違うコースを散策……レンギョウ・洋しゃくなげ スモモ・ドウダンツツジ・よしのざくらなど可愛い花が沢山！春爛漫💖

自然の中を歩くと本当に気持ちが良く、リフレッシュできました（6月はハナショウブ・あじさいがきれいですよ！）青空の下で歩きながら切磋琢磨している仲間との話しは、ロータリアンならではの原点だと思いました。

広報委員会 委員長 伊藤佳子